

道徳科学習指導案

対象：小学校第5・6学年

1 主題名 家族の支え C(15) 家族愛、家庭生活の充実

2 教材名 ・北朝鮮による日本人拉致問題（政府 拉致問題対策本部）
・北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメ「めぐみ」（政府拉致問題対策本部）

3 本時の展開

(1) ねらい

めぐみさんの両親の思いを考慮することを通して、家族が相互に深い信頼関係で結ばれていることに気づき、父母、祖父母を敬愛し、家族の一員として家族の幸せを大切にしようとする心情を育てる。

(2) 展開

学習活動と発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
<p>1 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。</p> <p>○あなたにとって家族はどのような存在ですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご飯をつくってくれる。 ・遊びや習い事に連れていってくれる。 ・怒ってばかりいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●本時で扱うねらいとする道徳的価値に関わる発問を行い、問題意識をもたせる。
<p>家族との関わりとはどのようなものだろう。</p>		
<p>2 教材を通して、家族の心情を考える。</p> <p>①「北朝鮮による日本人拉致問題」^{※1}を読み、問題の概要や背景を知る。</p> <p>②アニメ「めぐみ」^{※2}を視聴する。</p> <p>○めぐみさんが突然なくなった時、両親はどのような気持ちだったと思いますか。</p> <p>○めぐみさんを救助するために行動し続けている両親はどのような思いだったと思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まさか、家出してしまったのだろうか。 ・もしかしたら誘拐されたのかもしれない。 ・早く帰ってきてほしい。 ・娘に早く会いたい。 ・めぐみ、何とかして探し出さず。 ・何があっても、我が子の命を救いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●拉致問題は、たくさんの人々の自由や幸せを奪う重大な人権侵害であることを理解させる。 ●アニメの概略を示し、めぐみさんが突然いなくなった場面、めぐみさんを救助しようと両親が行動する場면을視聴させる。 ●拉致被害者家族である横田さん夫妻の立場で気持ちを考えるよう促す。 ●娘のことを心配し、自分のことを責めながらも、娘を助けようとする両親の姿から、家族の深い絆について考えられるようにする。 ●「私たちは、北朝鮮に住む一般市民の人たちを憎んだり恨んだりしているわけではありません。」という早紀江さんの言葉を取り上げ、子を奪

		われた親の苦しみ、悲しみを想像させる。
3 自分の生き方を振り返り、 道徳的価値の自覚を深める。 ○自分と家族との関わりについて どんなことを考えましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の絆は何ものにも代えがたいものだから、家族のために役立つことを精一杯やっていきたい。 ・家族が自分のために何かしてくれることは当然だと思っていたが、自分への思いがあるからこそ、いろいろしてくれるんだと思った。 	●我が子の成長を願い、惜しみない愛情をもって育ててくれる家族の思いを考えるきっかけとする。
4 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族で助け合い、協力し合うことが大切だと思った。 	●子を思う親の心の痛みについて学ぶことで、家族との関わりについての思いを培うようにする。

<参照>

※1 北朝鮮による日本人拉致問題 1日も早い帰国実現に向けて！

【平成29年5月 政府拉致問題対策本部】

※2 北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメ「めぐみ」【政府拉致問題対策本部】

- ・平成29年4月14日付閣副第86号及び29初児生第5号 別添1 「アニメ「めぐみ」の学校における活用促進について（指導上の参考資料）」
- ・人権学習ワークシート集（高校編 第15集）【平成28年2月 神奈川県教育委員会】